

サイト環境レポート2003

ウシオ電機株式会社
ランプカンパニー 播磨事業所



未来は「光」でおもしろくなる

USHIO
ウシオ電機株式会社

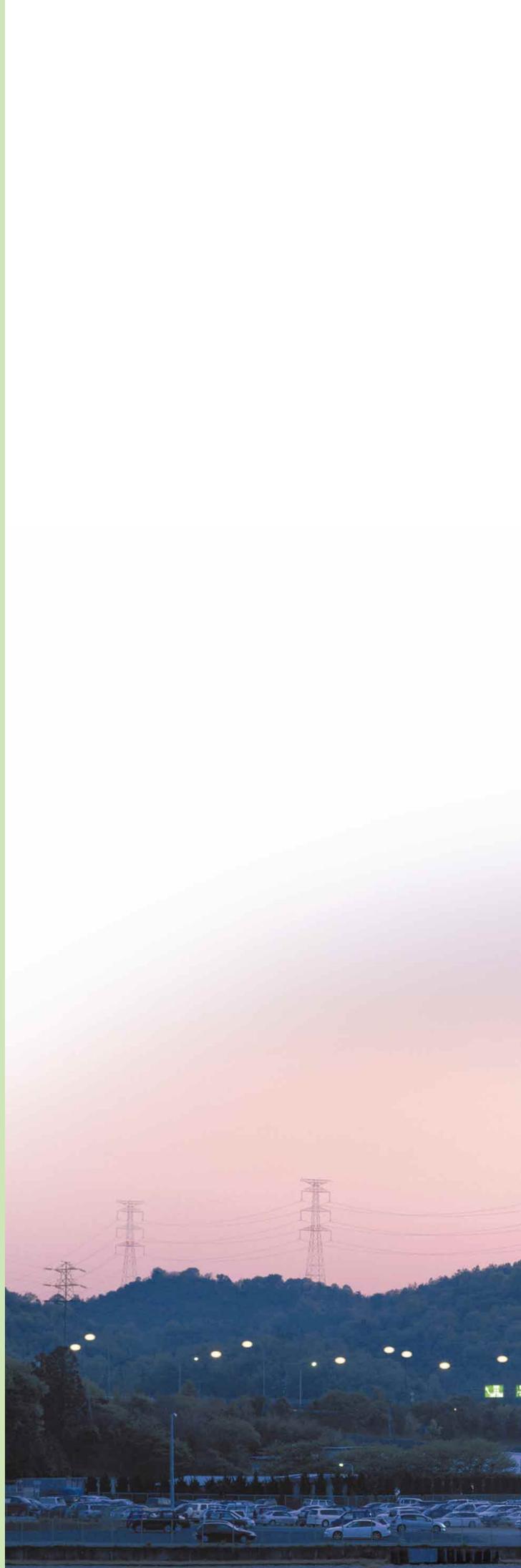
目 次

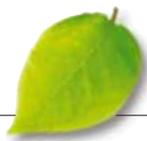
● ごあいさつ	P1
● 会社概要	P2
● 播磨事業所概要	P4
● 環境方針	P5
● 環境マネジメントシステムの状況	P6
● 2002年環境活動方針／目標・実績	
方針1.製品アセスメント	P8
方針2.省エネルギー	P9
方針3.廃棄物	P10
方針4.化学物質	P11
方針5.グリーン購買	P11
● 環境投資と効果	P11
● 活動年表	P12
ウシオグループ ISO取得状況	P13
私たちの行動指針10	P13

報告対象範囲

本レポートは、2002年度(2002年4月1日～2003年3月31日)の当社のランプカンパニー播磨事業所における環境推進活動の結果を報告するものです。

本レポートの構成は環境省「環境報告書ガイドライン(2000年度版)」を参考としました。





ごあいさつ

ENVIRONMENTAL REPORT 2003



取締役上席執行役員
ランプカンパニー プレジデント
播磨事業所長

菅田史朗

播磨事業所は、ウシオ電機株式会社ランプカンパニーの基幹生産事業体として、主力製品の「ランプ」および「光応用製品」を通じて、社会の発展に貢献することを使命としております。

環境への取り組みにおきましても、1997年10月のISO14001認証取得以来、当社グループの先頭を切って、事業活動、製品およびサービスの環境側面に配慮した活動などを行ってまいりました。

今期は、環境活動・第2期中期計画の最終年度にあたり、その目標達成とともに、現在第3期中期計画の策定を進めております。

私どもが次にめざす環境活動は、お客さまの利便性の向上・効率化を実現する製品・サービスにおいて、さらに環境負荷・

環境リスクの少ないものを提供することにあります。

本来、「光」および「光応用製品」がもっているクリーン性を生かし、素材の購入、製造工程のみならず、製品の使用、廃棄に到るすべての段階で、さらなる環境負荷や環境リスクの低減ができる製品を提案し続けてまいります。

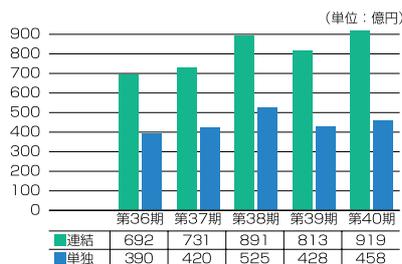
また、当社および当社グループの環境活動が持続性をもち、発展していくためには、播磨事業所のみならず、全事業体と連携を図るべく活動を開始いたしました。今回の「サイト環境レポート」は、こうした状況の中で発行いたしました。

皆さまのご意見・ご指導を仰ぎながら、より一層の取り組みを続けてまいります。何卒、引き続きご理解・ご支援を賜りますよう、よろしくお願申し上げます。

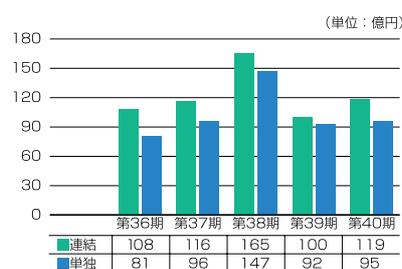
2003年 9月 吉日



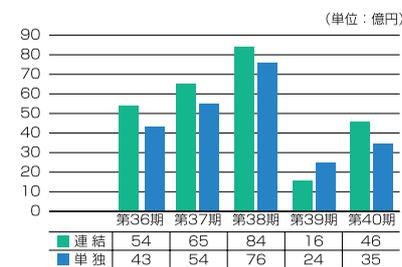
売上高



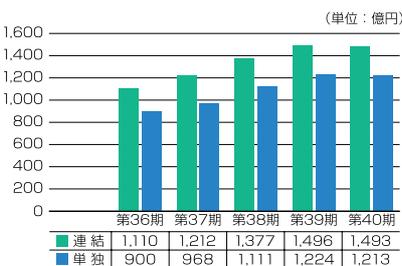
経常利益



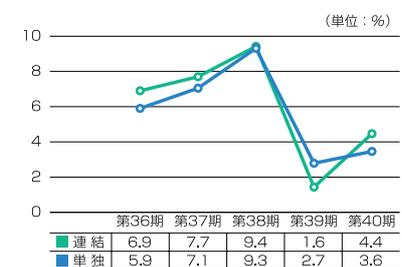
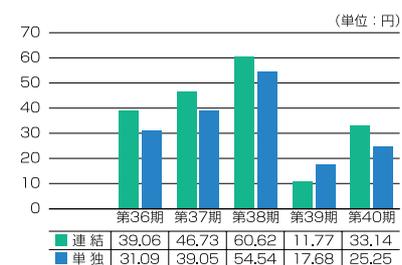
当期純利益



総資産



株主資本利益率 (ROE)

1株当たり
当期純利益

●沿革

1916年(大正5年)

11月 姫路電球株式会社として創業

1932年(昭和7年)

12月 日本電球株式会社と改称

1952年(昭和27年)

11月 牛尾工業株式会社として発足

1964年(昭和39年)

3月 ウシオ電機株式会社設立 資本金1,250万円

1967年(昭和42年)

5月 アメリカ地区販売拠点の設立 (USHIO AMERICA, INC.)

1968年(昭和43年)

9月 横浜事業所の設立

1970年(昭和45年)

5月 東京証券取引所市場第2部上場 資本金40,000万円

5月 播磨工場の設立(播磨事業所)

1971年(昭和46年)

8月 本社を東京・千代田区大手町朝日東海ビルに移転

1974年(昭和49年)

4月 大阪証券取引所市場第2部上場 資本金90,200万円

1980年(昭和55年)

9月 東京および大阪証券取引所市場第1部上場 資本金154,000万円

1981年(昭和56年)

4月 商社機能をもつ技術部門の改設(株式会社ウシオユーテック)

1983年(昭和58年)

6月 ハロゲンランプ製造工場の新設(兵庫ウシオ電機株式会社)

1984年(昭和59年)

9月 装置関連組み立て工場の改設(群馬ウシオ電機株式会社)

1985年(昭和60年)

2月 東南アジア地区販売拠点の設立 (Singapore Liaison Office)

4月 ヨーロッパ地区販売拠点の設立 (USHIO EUROPE B.V.)

1986年(昭和61年)

9月 香港に装置関連組み立て工場の設立 (USHIO HONG KONG LTD.)

1987年(昭和62年)

4月 アメリカにランプ生産工場の設立 (USHIO OREGON, INC.)

7月 台湾にランプ生産工場の設立 (USHIO TAIWAN, INC.)

9月 ヨーロッパにランプ生産工場の設立
(USHIO EUROPE B.V. TILBURG PLANT)

1988年(昭和63年)

9月 フラッシュランプ、希ガス放電ランプ工場の開設
(筑波ウシオ電機株式会社)

12月 フランスに販売拠点の設立 (USHIO FRANCE S.A.R.L.)
御殿場事業所の設立

1989年(平成1年)

6月 シンガポール販売事務所を現地法人化
(USHIO SINGAPORE PTE LTD.)

1990年(平成2年)

7月 海洋機器事業部門の分離独立(ウシオマリーン株式会社)

10月 ドイツBLV LICHT-UND VAKUUMTECHNIK GmbHを買収

1991年(平成3年)

4月 ティルブルフ工場を現地法人化
(USHIO EUROPE [TILBURG] B.V.)

12月 香港にランプ工場を増設
(USHIO HONG KONG LTD. YUEN LONG PLANT)

1992年(平成4年)

4月 米国の映写機器・クセノンランプの製造販売会社
CHRISTIE, INC.を買収

6月 ドイツに販売拠点を設立 (USHIO DEUTSCHLAND GMBH)

10月 一般照明用光源の製造販売会社を設立(ウシオライティング株式会社)

1996年(平成8年)

2月 フィリピンにランプ生産工場を設立 (USHIO PHILIPPINES, INC.)

3月 韓国に販売拠点を設立 (USHIO KOREA, INC.)

1997年(平成9年)

4月 英国に販売拠点を設立 (USHIO U.K., LTD.)

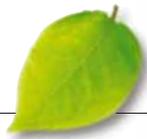
7月 ウシオグループの総合R&Dセンターを設立
(株式会社ウシオ総合技術研究所)

1999年(平成11年)

11月 カナダELECTROHOME LTD.の映像機器事業部門を買収し、
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS, INC.を設立

2000年(平成12年)

8月 コマツ(株式会社小松製作所)とエキシマレーザー事業の合併会社
を設立(ギガフオン株式会社)



播磨事業所概要

ENVIRONMENTAL REPORT 2003



商号 ウシオ電機株式会社 播磨事業所
 所在地 〒671-0224 兵庫県姫路市別所町佐土1194
 従業員数 904名 (平成15年3月31日現在)
 事業概要 紫外線ランプ、クセノンランプ、ハロゲンランプ等、
 特殊産業用ランプ及び電源、応用装置の設計、製造。

主力製品

光源	フィラメント電球	
	ハロゲンランプ	ハロゲンヒーターランプ
放電ランプ	クセノンショートアークランプ	セラミッククセノンランプ
	メタルハライドランプ	希ガス蛍光ランプ
	クリプトンアークランプ	超高圧紫外線ランプ
	高圧紫外線ランプ	低圧紫外線ランプ
	ディープUVランプ	高輝度紫外線ランプ
	超小型電子線管	
光の装置	エキシマVUV/O ₃ 洗浄装置	均一光加熱装置
	電子線照射装置	画像読取り照射ユニット
	画像定着ユニット	ランプヒーターユニット



研究開発

新しい「光の時代」を支えるのは「光」であり、優れた「光源」であるとウシオは考えています。その「光源」の能力を最大限に引き出すために、また、「光」の周辺に関わるさまざまな要請に応えるために、ウシオは開発の方向づけを、「光源」を中核にして、「光のユニット」「光の装置・システム」へと定め、研究・開発に努めています。

そして、今、世界的な規模で高まりを見せている環境保全や資源の有効活用などの新しい課題に対しても、ウシオは、「省エネルギー」「無公害」「再利用」を開発の柱に揚げ、従来にない次世代の「光」を追求しています。



オージェ電子分光装置によるランプ材料の不良解析



電界放出型走査電子顕微鏡による材料表面研究



X線マイクロアナライザーによる材料分析



光電子分光分析装置による元素分析

生産

ウシオは、高付加価値製品の開発・提供を通じて、すべてのお客さまの“満足”を得たいと考えています。そのために、お客さまと製品の開発段階から密接なコンタクトを繰り返しながら、「光」のニーズの一つひとつをスペックに凝縮させ、開発・試作・量産試作と各段階毎に厳しく品質を管理しています。

そして、ひとたび生産段階に入れば、「品質のつくりこみ」を合言葉に、最新設備と職人芸を融合させた、独自の多品種少量生産方式で“世界品質”を生み出しています。



希ガス蛍光ランプのエージングテスト



超高圧紫外線ランプの封止工程



ハロゲンランプの封体蒸着加工



ハロゲンランプの封止工程



環境方針

ENVIRONMENTAL REPORT 2023

1991年、ウシオは『存在理念』、『経営姿勢』、『行動規範』の3本柱から構成される「企業理念」を制定いたしました。この中の『存在理念』で提唱している“常に地球を見つめ、光創造企業として新しい価値を提言します”の主旨に基づき、播磨事業所では、地球環境の保全のために、以下の基本理念と基本方針を掲げます。



I. 基本理念

地球環境の保全が人類共通の課題になった現代に生きる企業として、あらゆる事業活動において環境保全を優先課題として取り組む。

II. 基本方針

(1) 環境保全活動の概要

ウシオ電機播磨事業所が行う製品の技術研究、開発、設計、製造等の事業活動及びハロゲンランプ、放電ランプ、露光・熱源ユニット、光源装置等の製品が環境に与える影響を的確に捉え、地球環境保全活動の継続的発展に努める。

(2) 法規制及び事業所が同意するその他の要求事項の遵守

環境関連の法律、規制及び協定を明確にし、遵守する。
また、それらを遵守するだけでなく顧客等の利害関係者の要求に応えるために自主基準を設定し、一層の地球環境保全に取り組む。

(3) 環境目的、環境目標の設定、実行及び見直し

技術的・経済的に可能な範囲で播磨事業所全体の環境目的・環境目標・環境マネジメントプログラムを設定し、部署別に展開し、実行するとともに定期的な見直しを行う。

(4) 継続的改善及び汚染の予防に関する約束

ウシオ電機播磨事業所が行う事業活動が環境に与

える影響の中で、特に次に挙げる項目について優先的に保全活動を推進する。

- ①製品アセスメントに取り組む。
- ②省エネルギーの推進、省資源化に努める。
- ③廃棄物の削減、リサイクル化に努める。
- ④有害な化学物質使用量の削減と化学物質の保管・管理の強化に努める。
- ⑤グリーン購買の推進に努める。

(5) システムの維持向上

内部環境監査を定期的実施し、自主管理による環境マネジメントシステムの維持向上に努める。

(6) コミュニケーション

関係諸官庁、地域住民、顧客とのコミュニケーションを図り地域社会に貢献する。

(7) 文書化及び周知

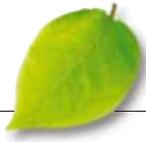
環境方針を文書化し、それを基に環境教育、社内啓蒙活動等を実施することにより全従業員の環境方針の理解と、環境に関する意識向上を図るとともに、仕入先、委託加工先、契約業者へも環境方針を周知し、理解と協力を要請する。

(8) 公開

この環境方針は社内外にも公開し、一般の人が入手可能なものである。

ウシオ電機株式会社
ランプカンパニー プレジデント

菅田史朗



環境マネジメントシステムの状況

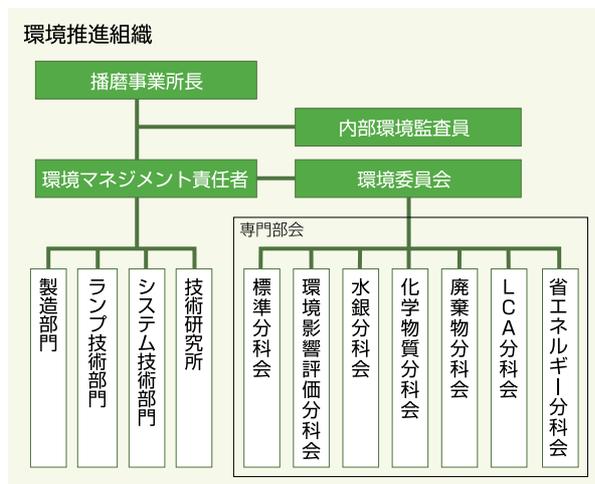
ENVIRONMENTAL REPORT 2003

ウシオは、企業理念の中で「美しい地球の環境を守る」ことを明記し、1996年5月、主力生産事業体である播磨事業所に環境委員会を設置して、環境への取り組みを優先課題としてきました。

1997年7月に『播磨事業所環境方針』を発行し、中期計画および年度毎の目標をマネジメントプログラムに展開し、取り組みを続けています。

環境マニュアルに定めたマネジメントシステムに基づき、年度毎の事業所プログラムを各部署の行動プログラムに展開して取り組みが行われます。結果は定期的に経営者（播磨事業所長）に報告されます。

環境委員会に設けた専門分科会の提言により、部署の行動プログラムの支援とともに、より専門的な行動プログラムに深めていきます。



環境監査

播磨事業所は、1997年のISO14001認証取得以来、外部審査機関による毎年のサーベイランス、定期的更新審査を受けています。さらに、社内の内部環境監査を実施し、法令遵守状況及びマネジメントシステムの運用状況、目的・目標の達成度を評価しています。前年度20件の指摘事項を全て改善したことを確認し、また、環境取り組みの質的向上という視点でレベルを評価しました。

法規制への対応

播磨事業所から排出される水、大気への放出物質、騒音等に対し、法令等規制値に加え自主基準を設け、環境負荷の抑制に努めています。本年度も大きく基準値を超えるものはありませんでした。

また土壌汚染につきましては、1998年に土壌分析を実施し、汚染がないことを確認しております。

(1) 排水の保全

播磨事業所では、2001年に排水中のフッ素イオンを除去するために、凝集沈殿装置を増設しました。播磨事業所がある姫路市は瀬戸内海に面しており、排水にはCODによる総量規制（兵庫県条例）を受けます。

事業所内では、排水管理の強化策として、CODの社内分析を実施するなど、規制値よりもさらに厳しい自主基準を定めて管理しています。

2002年度もその自主基準に対し、1項目（全燐）を除き達成しています。



凝集沈殿装置



排水水の点検



排水水の点検

● 排水の実績

項目	排出基準値		実測値(最大値)
	規制値	自主基準	2002年度
pH	5.8~8.6	6.0~8.0	7.6
BOD	100	11.3	10.0
COD	100	16.0	11.0
SS	150	14.2	12.0
n-ヘキサン抽出物	4	1.5	<1
フッ素及びその化合物	8	2.9	2.4
全窒素	60	27.9	25.0
全燐	5	4.5	4.6
カドミウム及びその化合物	0.05	0.045	<0.005
鉛及びその化合物	0.1	0.09	<0.02
水銀及びその化合物	0.005	0.0045	<0.0005

(2) 大気の保全

播磨事業所では、法及び条例等で定められた大気汚染に係る該当施設として、冬期の暖房用に使用している重油ボイラー（大気汚染防止法に定められたばい煙発生施設1基、その他2基）を使用しています。これらにつきましては、運転管理の強化、定期メンテナンスの実施等を行い、燃料（A重油）使用量及び運転時間の削減に努めております。

廃棄物の焼却炉がありましたが、ダイオキシン対策として1998年に廃止いたしました。



日常点検

●大気汚染測定実績

項目	排出基準値		実測値(最大値)
	規制値	自主基準	2002年度
ばいじんg/Nm ³	0.3	0.24	0.002
いおう酸化物Nm ³ /h	0.58	0.46	0.017
窒素酸化物ppm	250	200	46

(3)騒音防止

播磨事業所は市街化調整区域にあり、騒音規制は第2種区域としての規制を受けています。

(4)化学物質管理(PRTR^{*}法対応)

2002年度播磨事業所において使用された化学物質のうち、PRTR法に対応する化学物質を集計した結果、規制量を超えて行政報告対象となる物質はありませんでした。

PRTRとはPollutant Release and Registerの略

環境教育

播磨事業所が進めている環境保全活動の根幹を支えているのは、従業員一人ひとりの環境保全に対する熱意です。

従業員全員の環境意識を高め、積極的に取り組めるように、継続的かつ繰り返しによる教育が重要です。新入社員に対する啓発教育から、特定従業員の専門教育にまで、階層に応じた環境教育を実施しています。

2002年度は、環境関連の公的資格取得者の増員、製品アセスメントや部材グリーン調達に関する設計開発部門の技術者教育を重点に進めました。

また、内部環境監査員教育を毎年実施し、監査員を養成してきました(登録内部環境監査員29名)。

監査員有資格者が増員されることで、各部門における環境活動の実行能力が高められる効果があります。

●公認資格取得状況(2002年3月31日現在)

公認資格名	人数	公認資格名	人数
公害防止管理者	5	エネルギー管理員	3
危険物取扱者	57	有機溶剤作業主任者	60
毒劇物取扱責任者	3	ボイラー技士	4
衛生管理者	4	電気主任技術者	7
鉛作業主任者	6	放射線取扱主任者	5
環境計量士	2	特定化学物質等作業主任者	51
高圧ガス製造保安責任者	6	特別管理産業廃棄物管理責任者	4
エネルギー管理士	4	小規模のボイラー取扱者	2

緊急事態に備えた環境リスクマネジメント

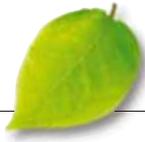
ウシオ電機播磨事業所では、地域に対して環境問題を起こすことがないように、未然防止対策に重点をおいた活動を展開しています。化学物質を取り扱っている部署は、設備の故障、損壊、人的ミス等による突発事故に対し、環境汚染に関わる事態の発生を想定して緊急時対応教育訓練(緊急事態発生時の対応設備・道具の配備、対応手順の設定等)を行い、同時に対応方法の見直しを図っています。

冬場の暖房用のボイラー(A重油地下タンク)、工場廃水処理設備等についても、起こり得る緊急事態を想定し、対応方法の訓練と見直しを定期的実施しております。



緊急時対応教育訓練風景





2002年度環境活動方針／目標・実績

ENVIRONMENTAL REPORT 2003

2002年度

方 針	目 標	実 績
1.製品アセスメントに取り組む。	①主要製品の製品アセスメントを5件実施する。 ②水銀、鉛、六価クロム等の使用状況を把握し、削減の方策を作る。	①アセスメント実施7件にて達成した。 ②分科会を組織し、法規把握と使用状況調査の方法を検討して答申した。(引き続き4、②の基準作成を行った。)
2.省エネルギーの推進、省資源化に取り組む。	①電気使用量をCO ₂ 換算原単位にて402(kg-co ₂ /百万円)以下とする。	電気使用量CO ₂ 換算原単位、387(kg-co ₂ /百万円)にて達成した。
3.廃棄物の削減、リサイクル化に取り組む。	①リサイクル率を87%以上にする。	リサイクル率88.8%にて達成した。
4.有害な化学物質使用量の削減と化学物質の保管・管理の強化に努める。	①劇物、毒物の管理体制を見なおす。 ②化学物質データベース化を行う。	①手順書と実施状況を点検し、問題のないことを報告した。 ②播磨事業所版、グリーン調達基準、化学物質分類表を作成・登録し、仕入れ先調査を依頼。データベース入力と試験運用に入った。
5.グリーン購買の推進に努める。	①部材梱包を減量化、通函化することにより、ダンボール原単位量を前年比5%削減する。	①削減率≒0%にて達成できなかった。

方針1. 製品アセスメント

ウシオはランプ製品、光システム製品を通じて社会に貢献することが使命であると考えています。

元来、「光」は電気や熱、化学反応に比べ、「クリーン」、「高効率」という特長をもっています。

ウシオは独自の光技術により、常に一步先を見た新製品を提供し続けてきました。

また、オゾン層破壊物質全廃(1993年)など、事業所内の取り組みにとどまらず、ランプ製品に対してもノンアスベスト化、

鉛フリーガラス化などに取り組んできました。

さらに、2002年度はEUのRoHS指令の成立を見越して家電向け製品を中心として、鉛ハンダの転換、六価クロムフリー化など、対応の動きを開始いたしました。

1999年度より取り組み始めたLCA手法をもとにした製品アセスメントは、2002年度はさらに主要製品へ対象を拡大しています。

環境貢献製品事例紹介



●NSHランプ

NSHランプは、ウシオがプロジェクター光源として開発した直流点灯の超高圧水銀ランプです。プロジェクター用途に求められる小型、高輝度、フリッカーレスを達成し、モバイルタイプから据置タイプまで、幅広い範囲でのデータプロジェクター用光源として採用いただいています。



●超小型電子線照射管Min-EB

「Min-EB」は世界で初めての、低電圧で「ソフト・エレクトロン」と呼ばれる低エネルギーの電子ビームを放射し、これまでにない新しい電子線の応用と実用化を可能にしました。また省エネルギー、常温で処理が可能など、環境にやさしい製品として、その独創性が高く評価されています。



●SHランプ/SUVランプ

半導体露光、液晶露光、P板露光用の紫外線ランプとして、高輝度、照度高維持率、長寿命ランプをシリーズ化し、お客様の環境負荷低減に寄与することで好評を得ています。



●クセノンショートアークランプ

大出力プロジェクター光源として、新設計のクセノンランプ、光学系により、従来比約2倍の高効率を達成。デジタルシネマ時代の幕を開けました。



●希ガス蛍光ランプ

外部電極式希ガス蛍光ランプは、希ガスの採用によって温度依存性、光量安定性を高めます。さらに外部電極方式の採用によって高輝度化、省サイズ化などの優れた特長をもっています。



●誘電体バリア放電エキシマランプ

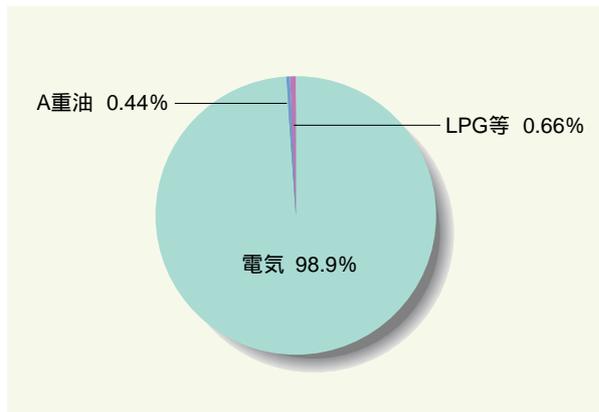
波長172nmのVUVを効率よく発光し、従来の低圧紫外線ランプでは不可能だった化学反応を引き起こすことができるほか、従来比5倍以上の反応時間の高速化を実現しました。

方針2. 省エネルギー

省エネルギー対策と大気汚染防止

当事業所のCO₂排出量は、そのほとんどが電力の使用によるものであり、省エネルギー活動は電力の削減を重点にして取り組んでいます。

エネルギー源構成比

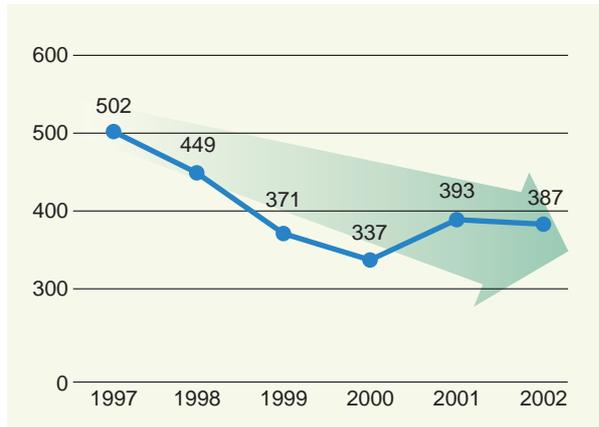


前年度(2001年)、当事業所は総使用電力量が1,200万Kwhを超え、エネルギー第1種(電気)工場の申請を行い、近畿経産局より同指定をいただきました。

CO₂換算電力原単位は、2002年度目標を達成したものの、事業内容の変化、高付加価値品への転換など、当事業所の置かれた環境は省エネルギー活動をさらに厳しいものになっています。

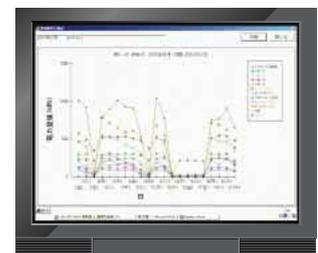
CO₂換算原単位の推移

(単位:kg-CO₂/百万円)

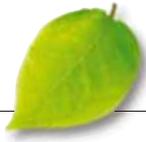


《主な省電力取り組み事例》

- 発熱設備から出る廃熱を効率良く排出することで、作業場の空調負荷を低減しました。
- 省エネ委員会を中心にした巡回活動を実施しました。
- 生産設備の稼働パターンを見直し、効率改善を行いました。
- 電力モニターを設置し、設備個々の使用電力データを把握できるようにしました。
- 工場全体で休電日を実施しました。
- 省エネ灯具への切替を実施しました。
- 工業用循環水ポンプのインバータ化を実施しました。
- 循環水ポンプインバータ化にし、必要圧力に対して最適なコンプレッサーが稼働するようにしました。圧力変動をシビヤに抑えるようにしました。
- 空調負荷の低減として、事務棟窓ガラスへ断熱フィルムの貼付けを行いました。
- 空調効率の改善として、主要な室外機に散水装置を設置しました。
- 氷蓄熱空調機を試験導入しました。



電力モニターを設置



2002年度環境活動方針／目標・実績

ENVIRONMENTAL REPORT 2003

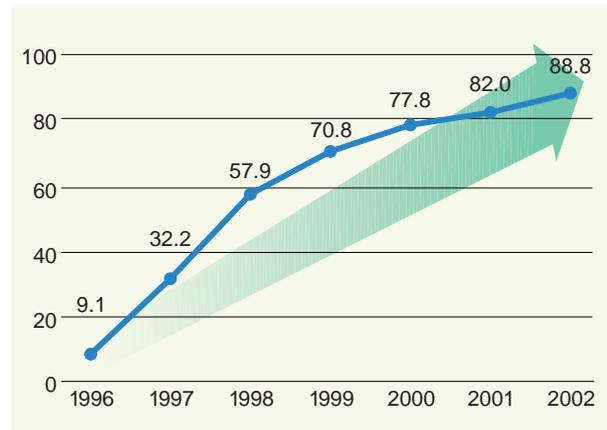
方針3. 廃棄物

リサイクル率については、目標の87%に対して、88.8%を達成しています。

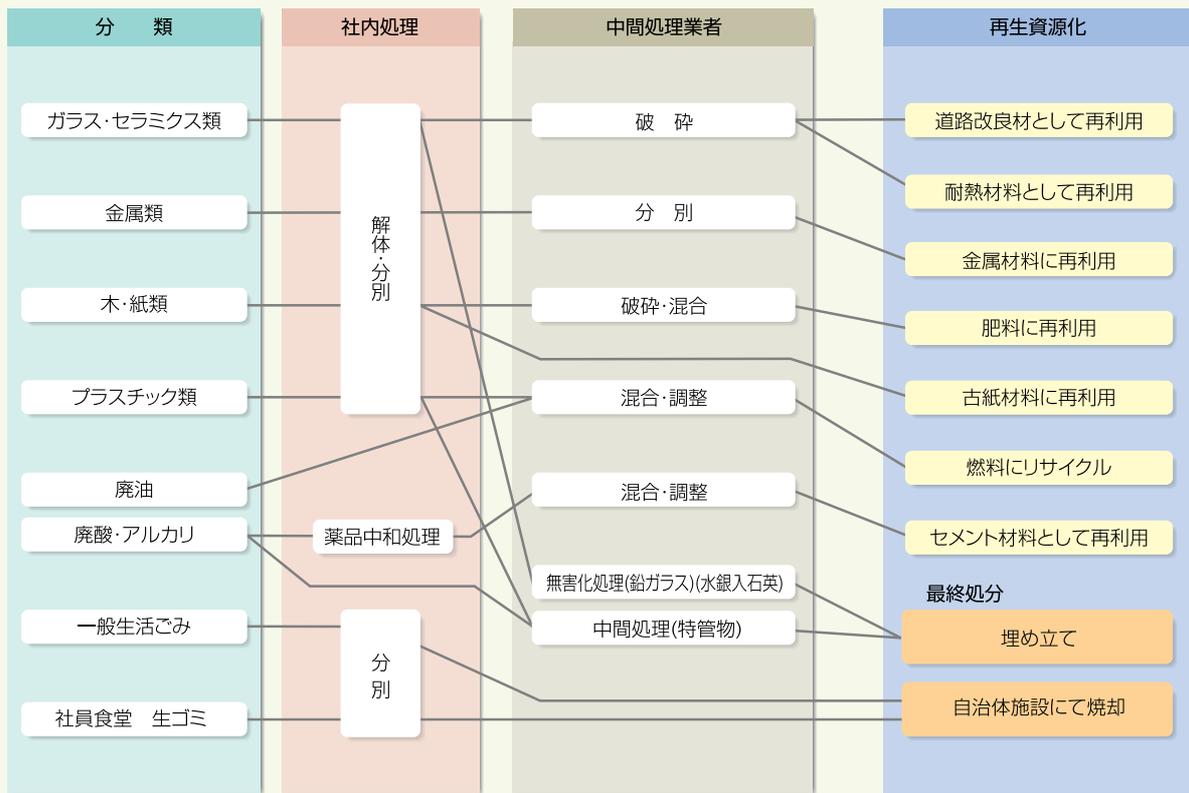
《主なリサイクル実施事項》

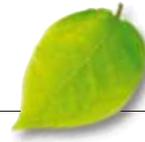
- ガラス屑：粉砕後道路骨材として利用しました。
- 廃液10品目：他の原料と混合してセメント工場の燃料として利用しました。
- 雑草屑、剪定屑：裁断後特殊肥糧の原料として利用しました。
- 石英ガラス：粉砕後耐火煉瓦の原料として利用しました。
- 廃プラスチック：粉砕後溶融固化し発電ボイラー用燃料として利用しました。
- 排水処理汚泥：他の原料と混練しコンクリート増容材として利用しました。

■廃棄物リサイクル率（単位：%）



リサイクル化の流れ





方針4. 化学物質

現在社会では、日々様々な化学物質が生産され、色々な用途に使用されています。私たちの生活の中で化学物質は欠かせないものとなってきています。しかし、その反面、公害問題、地球温暖化、オゾン層破壊と地球環境問題を引き起こしているのも化学物質そのものです。

ウシオ電機では、事業所内で使用する化学物質を量的な管理下に置き、且つ環境中への排出によるリスクを低減する活動(規制物質の使用禁止、代替化、排出抑制等々)を続けてきました。

《主な実施事項》

- 使用禁止物質97物質、使用規制物質18物質、事業所指定管理化学物質11物質を指定し、重要な化学物質についての管理体制の強化を行っています。
- PRTR法における届出対象物質は、規制量に満たない量でした。さらに、2002年度は部品・材料を構成・含有される化学物質を正確に把握するように、グリーン調達基準を定め、仕入れ先様のご協力をいただきながら、データベース化を行っています。

方針5. グリーン購買

①文具・事務用品

事務用品を購入する場合に、環境負荷の少ない商品(エコ商品)を優先して購入するしくみを採用しています。

- グリーン購入ネットワーク(GPN)に入会。
- エコ商品の指定(文房具グリーン購入手順書)
- 「べんりねっと」の導入。

②部材グリーン調達

2002年度はグリーン調達基準第1版を定め、仕入れ先さまのご協力をいただいて、部材と仕入れ先認定を進めています。

③購入部品の包装梱包材の削減

廃棄物の削減のためには、まず入り口を締めるとの考えから、リサイクル可能物であるものの量が多い「ダンボール」の削減に取り組んできました。

仕入れ先さまのご協力をいただき、一部の部材梱包ダンボールでは、形状変更による減量化や通函化が可能となりましたが、一部の部材では逆にダンボールへ素材変更したのもあり、結果として2002年度は原単位5%削減目標に対し、≒0%の削減(前年度値とほぼ同じ)となり、目標を達成できませんでした。

2002年度の環境投資と効果の実績は下表のとおりです。

投資金額(2002年度)

単位:百万円

項目	投資金額	内容
H-1棟環境改善投資	4.8	トイレ等生産付帯環境設備改修
インバーター空調機への切り替え	4.8	インバーターポンプの設置
照明器具更新等	1.6	インバータ照明器具への切替え
投資金額合計	10.2	

環境保全コスト(2002年度)

単位:百万円

項目	費用	内容
公害防止コスト	12.9	大気汚染防止、水質汚濁防止活動等
環境保全コスト	24.7	省エネ、オゾン層破壊防止活動等
資源循環コスト	22.3	廃棄物削減、リサイクル推進活動等
環境保全コスト合計	59.9	

経済効果(2002年度)

単位:百万円

項目	効果額
デマンド管理等、契約電力削減	7
合計	7

物量効果(2002年度)

項目	削減量
空調等の電力削減	31,600kwh
埋立廃棄物処分量の削減	14.9t

活動年表

ウシオ電機株式会社の取り組み	西暦	世の中の動き
<ul style="list-style-type: none"> ●化学物質の初期調査実施 ●播磨事業所に環境委員会設置 	1996年	
<ul style="list-style-type: none"> ●塩化ビニール、カドミ含有銀ロウの削減 ●ISO14001認証取得（播磨事業所） ●播磨事業所環境方針発行、 金属屑・ダンボールリサイクル 	1997年	<ul style="list-style-type: none"> ●第3回 気候変動枠組条約締約国会議（COP3、京都会議）開催 京都議定書採択
<ul style="list-style-type: none"> ●(財)省エネルギーセンターによる省エネ診断受診 ●工場緑化拡大、騒音対策実施、 古紙・石英ガラス・木屑リサイクル ●焼却炉使用停止、土壌汚染調査実施 	1998年	<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化対策推進法制定
<ul style="list-style-type: none"> ●指定管理化学物質追加 ●LCA手法導入、廃プラ・汚泥リサイクル ●使用禁止・使用規制化学物質を指定、 PRTRパイロット事業参加 	1999年	<ul style="list-style-type: none"> ●改正省エネルギー法施行 ●PRTR法制定
<ul style="list-style-type: none"> ●鉛ガラスの削減 ●ウシオべんりねっと導入、ボイラー1基廃止 ●廃棄物計量集計システム導入 	2000年	<ul style="list-style-type: none"> ●循環型社会形成推進基本法制定 ●廃棄物処理法改正 ●資源有効利用促進法制定
<ul style="list-style-type: none"> ●(財)省エネルギーセンターによる省エネ診断受診 ●ガラス屑リサイクル ●フッ酸処理設備増設 	2001年	<ul style="list-style-type: none"> ●家電リサイクル法施行 ●グリーン購入法全面施行 ●国連気候変動枠組条約第7回締約国会議（COP7）開催
<ul style="list-style-type: none"> ●部材グリーン調達基準第一版 ●第1種エネルギー（電気）指定工場 ●空調・照明器具の一部、効率化設備への転換 	2002年	<ul style="list-style-type: none"> ●WEEE（EU廃電気電子機器指令）発効 ●RoHS（EU電気電子機器特定有害物質使用制限指令） 発効 ●持続可能な開発に関する世界首脳会議 （ヨハネスブルグサミット）開催 ●土壌汚染対策法公布

ウシオグループ ISO取得状況



1997年10月
ISO14001認証取得 播磨事業所



2003年1月
ISO14001認証取得 ウシオライティング



1993年5月
ISO9001認証取得 播磨事業所



1999年7月
ISO9001認証取得 横浜事業所

●国内

会社名（又は事業所名）	ISOシリーズ（取得年月）
播磨事業所	ISO9001（1993.5） ISO14001（1997.10）
横浜事業所	ISO9001（1999.7）
日本電子技術（株）	ISO9001（1999.5）
ウシオライティング（株）	ISO9001（2000.12） ISO14001（2003.1）
群馬ウシオ電機（株）	ISO9001（2002.1）

●海外

会社名	ISOシリーズ（取得年月）
BLV Licht- und Vakuumentchnik GmbH	ISO9001（1991.12）
Christie Digital Systems Canada, Inc.	ISO9001（1995.8）
Ushio Taiwan, Inc.	ISO9002（1997.7）
Taiwan Ushio Lighting, Inc.	ISO9002（1997.7）
Ushio Hong Kong Ltd.	ISO9002（1998.2）
Ushio Philippines, Inc.	ISO9002（2000.12）

社会の一員として 私たちの行動指針

10

ウシオは、グローバルスタンダードを基本とする新時代にふさわしい『企業理念』を1991年に策定し、更にその精神を社員一人ひとりに具体的に浸透させるための『行動指針』を1997年に制定しました。

企業は限りなく社会的な存在であるとするウシオは、社会や環境との共生・共存をなによりも大切にし、社会や環境と調和のとれた事業活動に努めています。

- 1 私たちは、多様な個性と価値観を受け入れ、共働する会社を目指し、自己研鑽と自己改革に努めます
- 2 私たちは、革新的で、挑戦的で、スピーディーな経営に取り組み、会社としての永続的な発展に努めます
- 3 私たちは、すべての人々の基本的な人権を尊重し、明るく安全快適な職場環境を作ります
- 4 私たちは、良質で安全な製品・サービスを適正な価格で提供し、公正・公平な取引を行ないます
- 5 私たちは、社会から理解と信頼を得られるように努めます
- 6 私たちは、法令を遵守し、社会的良識に従って、公正な企業活動を行ないます
- 7 私たちは、会社の定める規則や基準に従い、誠実に職務を遂行いたします
- 8 私たちは、環境保全と資源の有効活用に取り組みます
- 9 私たちは、積極的な広報活動を行なうとともに、第三者の情報の価値や権利を尊重します
- 10 私たちは、国際社会の一員として、それぞれの地域の発展に貢献します

未来は「光」でおもしろくなる

USHIO

「光」でできること、「光」だからできること

高精度化、超微細化、低温処理化がどんどん進む技術革新の真ただ中で、光がこれらのボトルネックを解決する新しい有効な手段として、さまざまな分野で重要な役割を担い始めています。これからの光創造企業集団・USHIOに、どうぞご期待ください。

インターネットでUSHIOのホームページをご覧ください。

<http://www.ushio.co.jp>

『サイト環境レポート2003』の内容に関するご意見、お問い合わせは下記までお申し付けください。

発行：ウシオ電機株式会社 ランプカンパニー 環境マネジメント推進室

〒671-0224 兵庫県姫路市別所町佐土1194

TEL.0792(52)4516 FAX.0792(52)3203



R100

大豆由来のインク
自然環境にやさしい印刷インク

03-09-1000KO